823
.M5K5

湖月抄

むめかえ

32

Freer Gallery of Art
Washington D.C.

7152

篝火　并　細　巻名以テ詞并歌ヲ号ス之　哥には　盃かゝり
火に立そふ恋乃煙こそ世にはたえせぬほのほなり
けれ。詞には　師　八　かゝり火にたぐひてこそとあり
細　源氏卅六歳の秋乃頃のまゝあり篁の并也　愚按　かの
一説に云さかりて卅六歳の秋なり

此比世のいひくさに
細　まうちの君は内大臣を云
て源のこゝへ今姫君
といふは近江君を篁に
黒もと行くく
ともあれかくもあれ
細　ともあれかくもあれ
其女子を人に見せむ
なごりのかごとをも
まつはしは師なほざりのかごと
まつりてはさ給と源は近江
とは近江の君の事なと
こちよりの人のとりの
めつらしくもあらて
源のとよりなる女子など
へわらせて人にかくはせ
ゆきゝにはあやしきを
心得ぬは細の内猶よ同し
こと〳〵しう物し給　盃内
細　内大臣のふるまひ
府のはかくもなくよろ
心源の心ひかて
源きこゆとも　細よくよき
もちゐがたしてふとよ

このごろ世の人乃いひくさにまうちの　言種之　内府之
いまの姫君とことにふれつゝいひ　今姫君と
ちらすを源氏乃おとゝきこしめして
ともあれかくもあれひとみるまじくてこ　源氏の大臣
もりゐたらん女ごをなほざりのかごと
にてもさばかりにものめかし出てかく
人に見せいひつたふるこそ心えね
いときは〳〵しう物し給あまりに
ふかき心をもたづねずもて出て　内大臣のさま
心にもつかねばかくはしたなき
なるべしよろづの事もてなしがらに
こそなだらかなる物なめれといとおし

よせかくるのきを出るゝと源のわかくさのひかるふみかり 寛同
まろ川のすり 盃 万事いひかりしあれしまうくらくかわうりとくし
うろまつけても
盃うらきまつあそても
源まうくこそし そひぜい
らせてあれどしりてこそ
近江にえのゆく人まなえ
まんとのくえ 悪業 あるま
うくこそといふ詞こいの
姫君ゆかりあると云
みうけそうへし
ちくていとうく 細 源乃
ゆくのありがさきを云
ちくもうく
さりとてゆくのまくるよ
盃たハ里どしハのまへ
どもどしてもうまく
ハ母御をうれぬとく
せこ云も 細 海の月あ
あれど家そハたせを
がもしハうしさかひしさと

げり給ふうらよつけくもかまよろくをそと。白
細 おかろうの人
盃 内大臣のすりをおのゑく
やとうろくし みがくらも舞ごろの流れ
とろりずつをるすれなあしきめしうハぐらぐら
がおしらくしやわらまのしさとごろいの姫ぎみ
おかろく
笑しちらどちくとをいとこうくこうてまつ
盃 源のとの子の里言の方のハろさきあれどく
とくりふかくされ らうそおうひされとさ
つきそは乞のまく よふとしうらて
あかもとそすし給ふどいとしかくされ
源のおどいとあうろます
こうのきまうらすくへやそりくるすう
おのゝ
う手とけこそてまふ秋みもありぬぐ
川風とくをくふきさ出てせこがころり。

まんふあのまうつく細よそ
あゝし古今にハぶせと
う衣のとそと吹捨つる
ちめづうさ秋の稲風の
心まうべし 海六帖ハ秋風の
とさしくしかハうかせさ
う衣のもとそのうさきぶ体
しさ 師らくくびしさ
ハ四まべしまこ

右近のかうよ 日右近将
盃叙爵しうく所右
近大夫謹とまうし

うしきびしさらし給よしのびるのつ。
源のゝ
いとちりくもうりまそおりしきりくし。
おかくのゝ 見え
れうしなずらもうすくそうこくてまふ太三目
細 和琴也
乗 いつむいを
の夕月夜いとくいりてもそくしくのあ
気色。萩の葉をやうりく衣すりねざま
すりよろり流しうろと枕みくうまろ
源の玉とし
細 おかろくのゝ
まそひかしまつりうらろうくひあうんや
と折るげさうらみく。夜みうし給ふと。
源のゝ
ひとのとうめなくんこしく絃 笑をばさ
細 ゆかり
うまし給ふんとそ。母まへのうりまゆへとろう
盃 舞大
さしげさるうどはそとすりまきのさる
うこん
とめしてをとしつけさを給いて侍し

うらすみ川　細　池のある
どのよふよ舞火の蛍を
まくらへ入くるね
一葉盃問

夜の月すゝき　細　秋よ出ぬ
とおて夜の月すれど
以ろ面白し夜ばかり

げろうやなもあつの御くらりよ敷なめて（盃うかり火ハうすうぞなの上てそらくえ）
ひろくらかへうる、ままをのまろえてよ。（檀）
打まり川、ゆくろくしつぬ御ばよよせき
てぶしそぶそそしくれハ前の（前の方へハまどの手退てゝ）
まそしいうもそしくおりしさ御どおう
ひかりよ、安の流よ風をもひありて。（おろしのさ御之　おろしの蔵源のまぐりあそびられさゝ）
れぐしのまあうりるしいうとひやくうよ。
あてそうるすうこうらしそぐらとげぬ（おろしの面之）
風よりのとつくきしと光しさうろ
さいとらくうしげるすり、くりうく光（源の之）
やそらふしえん人さふしひくをもし（細　源の下知しまゝ之）（舞火もとく）
つけよ、夜の月すゝき御どハかはのひかり

も涼みれど秋とえ秋
の中を残暑あれハ夜
とおうんのあれづく
うり火よ　細　秋もひハ
ひかり火よもとそくさ
おとろ残りよ足のふ
うそく盃ろう忘の舞火
よ立そふ、舞ハとろや
うまのれともまうぞひ
ハきくぬとく　細　引寄
いつまでとうや
夜ごす遣ハ富よふとぶろ
るろ火のいつまで秋身
下りえよせん盃わづ下
りくハさめうこしるすれ
ばとく　師　ぶそぶうるう
でりしハやり火るしそ
りくゝ幸奇とうけてく
ゆくえるきさ定よ　師　舞
火の煙ハ雲よの知りて
影そふ雨うねるれハ涼の
舞火よ立そふ忘の煙
と語うも待て舞火の
やつりよ影ひゝら忘の

すさいつともむつうしくおりうるしやとの
ふまふ
（源方）うづつま火よまちそふ忘のなかりそ
世よはうえをぬ御の前すりくれいろうま（源の前之）
でしかや、ふそぶうすしそでもぐらうしさ
ちうさりえるりくらしとそくしまふ舞忘（おろしのゑ之）
あやしのまさ風やとお御ととるよ
（おう）打来うき定よげちてようらゆへ乃
さそうりよ舞ぐふなふりるりすしばんのあ（細　おろうの）
（師　おろうの細之）やしとみりひろづんとくしまひ安人へて。
（細　源細さうハまどりへ之）なそらやしてりぞまつよ、ひんぐーの舞い（花数之）
まうるよ、おりしろき諸ののふきうつよふき

たけはら〳〵バ源しもまくつくのゆすをやがて出らてよ人のあやしと出侍らへするとよ
しまうかき〳〵えのひさうるよかうさあらせてうり 師 筆の絵よおらせてとお重ハよ
二笛めく〳〵し笛と八吹物の並名をいへく
源中将まて〳〵 細 柏木も養 柳木の笛ら
と実定の吹ふへ笛の堪
能の人なりし此人の笛役
よ叢もある人傳ゆり
愚按 源の詞く
あるすこまる人 孟 源ふられ
役ありて夕霧をよひま
いらせまかせ

源をしひきおて
何和琴のおすえ次詞よ
此琴ハ中将よゆづらせ給
ひ河ずようのらてせ
の爪音よとこ〳〵せ
ほとあり彼内大臣和琴と
弁ねの上をとえらり

あそせしうら中将の例のあらうそうれぬ（ふくイ 草子地く）（義 夕霧の朋友）
どらおそふべこそあらろ。頭中将よこそ（るかう）（か ウライ 右近中将ナ）
あるれいとわざともあるまる録られとて（孟 もあまる詞く）（細 吹人るとこ）
立とゆうあふれそそこゆるさまよみん。（ぬる人とし出るまく）（源の夕へく）（細 源のせてそこ云々）
いとうけもぐしきうらべよとくめくれ
とくのすうとめあゝれハうらつれてこ人（細 夕霧以中将弁おゝ）
まうまくう風の音秋はすりうろと吹（細 源詞く 秋風来のこゝろく）
えう絃のよよあだれでふんとて流し（孟 堪ぬしげくてとく）（地 哢 和琴こ）
ひき出ぐるうしきほどよひき絃源中（孟 夕霧）
将いだんきさでうよいとかりうく吹さ（盤渉調）（笛く）

弁のかねひそやしうらそて
哢 以中将のどうさあよ
貫のかねらしそひおしうと
鈴むしよゆふひ
細 花の夜よ及ひさるく声
まさむしうれぞうとん
らゝく 花 寛平の記云平
利世者 桓武孫 聲長蝉哥
初訝秋虫之嘯葉間云云
今葉声比虫音 此詠の
面影あり
さうづさうぞんして
細 孟 ならびのつねてよ実父
のゐなどとうこあ給ふ
るりあらててへくへ 哢 むろ
らのうすとりや此くい
の君ぶうよ譲おやし
みぞかがらてやされど
姫君もおられと吹すりく
げまあくれと 細 表のうへハ孫

てへ頭中将らうろひしてこゝしそて人（孟 柳木の 鈔 師 夕霧の方と云々）
うらすあそそうしとあれハ弁のかねひそらし（源氏のこ）（柏の事と）
うらひぞしてしのびやうまえてふいとくく（お鶴まこ）
ひしよゆうひさうろうかぞろうらさ（源のこ）
いとうあでゆくとは中将よゆづりせさまひ（細 柏木く）
川げよのうくのゆつまそとて。（中将の和琴と内大臣よゆうりき）
おさくとうしぼられやうよなりしう。（細 源の何ぼうくのゑと）
こよのくうよりのおきさてわく人この
しよこんうしこよひそうずなうところ（孟）
しておとうらすざしろんとハおもひなき（てハいうくとかうらてとく）（源のうゞうのゆゑ）
のつらよ思のぞれぬ しかもこそとのさ
ませハひめうきもげよあられとうてまふ（おろくこ）

くりしさんのかうえ之事
のかハ生しそしもかるべし
発んよるるしまされバ
うけてまさこよそひうくバ
まごよハこやうたぶこよ思
ひまきぎくにく兄弟とし
てあくぞとして
この中ねハ　細　柏木之死ある
よ司馬相如ら琴ノもそい
どむるをとひそう面白し
花　昔司馬相如が琴をとり
て卓文君がんとうし
久文君夜ね如がりし人
通ひくるしもかるよ
や　孟ま高うくとハ御中
ねまづまりくるん之梢
木の下にハひわくれよ和
琴をとらんとけてもくさ
まうてへんしく

さえをぬ中の心ちざうとろうるうまうまじた
抱きれどもや、この君ざらどひとあれぞ、
めよもみてみぞとめしてぞんどうけそ
まごよみりひうんバこの中将ハらてる
のうざうりつくしてぞふすらぞそぞく
つわずくみも、えむのびくもまじきくちすれ
どし海うくもそかしてゆきノくうろそけ
てもうきわさまぞ